



## stcli services コマンド

- [stcli services コマンド](#) (1 ページ)
- [stcli services asup コマンド](#) (2 ページ)
- [stcli services dns コマンド](#) (6 ページ)
- [stcli services ntp コマンド](#) (8 ページ)
- [stcli services sch コマンド](#) (11 ページ)
- [stcli services remotesupport コマンド](#) (14 ページ)
- [stcli services smtp コマンド](#) (16 ページ)
- [stcli services timezone コマンド](#) (18 ページ)

## stcli services コマンド

システム サービス関連の操作。

**stcli services [-h] [smtp | dns | ntp | asup | sch | remotesupport | timezone]**

### 構文の説明

| オプション                | 必須またはオプション   | 説明                                    |
|----------------------|--------------|---------------------------------------|
| <b>asup</b>          | セットのいずれかが必要。 | 自動サポート (ASUP) 設定名前空間でサポートされているコマンド。   |
| <b>dns</b>           | セットのいずれかが必要。 | ストレージ DNS 設定名前空間でサポートされているコマンド。       |
| <b>ntp</b>           | セットのいずれかが必要。 | ストレージ NTP 設定名前空間でサポートされているコマンド。       |
| <b>remotesupport</b> | セットのいずれかが必要。 | サポート リモート アクセス用にサポートされているコマンド。        |
| <b>sch</b>           | セットのいずれかが必要。 | Smart Call Home 設定名前空間でサポートされているコマンド。 |

| オプション           | 必須またはオプション   | 説明                                       |
|-----------------|--------------|--|
| <b>smtp</b>     | セットのいずれかが必要。 | 自動サポート設定名前空間用のストレージ SMTP でサポートされているコマンド。 |
| <b>timezone</b> | セットのいずれかが必要。 | タイムゾーン設定名前空間でサポートされているコマンド。              |

**コマンド デフォルト** なし。セット内の 1 つのオプションが必要。

**使用上のガイドライン** stcli services コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数を少なくとも 1 つ指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli services asup コマンド

このセクションでは、Cisco 自動サポート (ASUP) コマンドをリストし、説明します。ASUP は、障害に関する情報をプロアクティブに取得し、即時に対応できるようにします。ASUP はシステム パフォーマンスおよびキャパシティを計画する際にも役立ちます。



(注) ASUP は、SMTP に依存しています。ASUP を有効にする前に、ネットワークに SMTP を設定していることを確認してください。

**stcli services asup [-h] {enable | disable | show | recipients}**

### 構文の説明

| オプション             | 必須またはオプション   | 説明                           |
|-------------------|--------------|------------------------------|
| <b>disable</b>    | セットのいずれかが必要。 | ASUP を無効にします。                |
| <b>enable</b>     | セットのいずれかが必要。 | ASUP を有効にします。                |
| <b>recipients</b> | セットのいずれかが必要。 | ASUP 受信者リスト設定をサポートするためのコマンド。 |
| <b>show</b>       | セットのいずれかが必要。 | ASUP 設定を表示します。               |

**コマンド デフォルト** なし。セット内の 1 つのオプションが必要。

**使用上のガイドライン** stcli services asup コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli services asup disable コマンド

HX 自動サポート (ASUP) のサポートを無効にします。

**stcli services asup disable [-h]**

コマンドデフォルト 他にオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli services asup disable コマンドを実行します。

```
# stcli services asup disable
```

## stcli services asup enable コマンド

HX 自動サポート (ASUP) のサポートを有効にします。

**stcli services asup enable [-h]**

コマンドデフォルト 他にオプションはありません。

使用上のガイドライン

1. SMTP が設定されていることを確認します。stcli services asup smtp コマンドを参照してください。
2. stcli services asup enable コマンドを実行します。

```
# stcli services asup enable
```

## stcli services asup recipients コマンド

HX 自動サポート (ASUP) 受信者設定操作。

**stcli services asup recipients [-h] {set | clear | add | remove}**

| 構文の説明 | オプション         | 必須またはオプション   | 説明   |
|-------|---------------|--------------|--|
|       | <b>add</b>    | セットのいずれかが必要。 | ASUP 受信者の既存のリストに ASUP 電子メール受信者を追加します。                            |
|       | <b>clear</b>  | セットのいずれかが必要。 | ASUP 受信者リスト全体を削除します。個々の受信者を削除するには、asup recipients remove を使用します。 |
|       | <b>remove</b> | セットのいずれかが必要。 | 既存のリストから指定された ASUP 電子メール受信者を削除します。                               |

| オプション      | 必須またはオプション   | 説明   |
|------------|--------------|--|
| <b>set</b> | セットのいずれかが必要。 | ASUP 受信者リストを設定します。以前に設定した受信者リストを置き換えます。既存のリストに受信者を追加するには、 <code>asup recipients add</code> を使用します。 |

**コマンド デフォルト** なし。セット内の 1 つのオプションが必要。

**使用上のガイドライン** `stcli services asup recipients` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

- 既存の受信者リストからすべての受信者を削除するには、`clear` オプションを使用します。
- 受信者リストから特定の電子メールアドレスを削除するには、`remove` オプションを使用します。
- 受信者リストに新しい電子メールアドレスを追加するには、`add` オプションを使用します。
- 以前の受信者リストを新しい受信者リストに置き換えるには、`set` オプションを使用します。

## stcli services asup recipients add コマンド

ASUP 受信者の既存のリストに ASUP 電子メール受信者を追加します。既存のリストがこの時点で空である場合があります。このコマンドを使用すると、1 人以上の受信者を追加できます。

**stcli services asup recipients add [-h] --recipients RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]**

| 構文の説明 | オプション   | 必須またはオプション | 説明   |
|-------|---|------------|--|
|       | <b>--recipients RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]</b> | 必須です。      | ASUP 通知を受け取る受信者の現在のリストに 1 つ以上の電子メールアドレスを追加します。 |

**コマンド デフォルト** なし。少なくとも 1 人の受信者を入力してください。

**使用上のガイドライン** `stcli services asup recipients add` コマンドでは、少なくとも 1 人の受信者を指定します。複数の受信者を指定する場合は、各電子メールアドレスをスペースで区切ります。

```
# stcli services asup recipients add --recipients user1@mycompany.com user2@mycompany.com
```

## stcli services asup recipients clear コマンド

ASUP 受信者リスト全体を削除します。個々の受信者を削除するには、`asup recipients remove` を使用します。

**stcli services asup recipients clear [-h]**

コマンドデフォルト 他にオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli services asup recipients clear コマンドは、受信者リストからすべての電子メールアドレスを削除するために実行します。

**stcli services asup recipient remove コマンド**

ASUP 受信者の既存のリストから指定された個々の電子メール受信者を削除します。

**stcli services asup recipients remove [-h] --recipients RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]**

| 構文の説明 | オプション   | 必須またはオプション | 説明  |
|-------|---|------------|---|
|       | <b>--recipients RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]</b> | 必須です。      | ASUP 通知を受け取る受信者の現在のリストから個々の電子メールアドレスを削除します。 |

コマンドデフォルト なし。少なくとも 1 人の受信者を入力してください。

使用上のガイドライン stcli services asup recipients remove コマンドでは、少なくとも 1 人の受信者を指定します。複数の受信者を指定する場合は、各電子メールアドレスをスペースで区切ります。

```
# stcli services asup recipients remove --recipients user1@mycompany.com
user2@mycompany.com
```

**stcli services asup recipients set コマンド**

ASUP 電子メール受信者の既存のリストを指定された電子メールアドレスのリストに置き換えます。これは、既存のリストのすべての受信者を削除します。既存の受信者を削除するのではなく、既存のリストに受信者を追加するには、asup recipients add を使用します。

**stcli services asup recipients set [-h] --recipients RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]**

| 構文の説明 | オプション   | 必須またはオプション | 説明   |
|-------|---|------------|--|
|       | <b>--recipients RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]</b> | 必須です。      | 1 つ以上の電子メールアドレスを追加して、ASUP 通知を受け取る受信者の既存のリストを置き換えます。電子メール受信者が複数存在する場合はスペースで区切ります。 |

コマンドデフォルト なし。少なくとも 1 人の受信者を入力してください。

**使用上のガイドライン** stcli services asup recipients set コマンドでは、少なくとも 1 人の受信者を指定します。複数の受信者を指定する場合は、各電子メールアドレスをスペースで区切ります。

```
# stcli services asup recipients set --recipients user1@mycompany.com user2@mycompany.com
```

## stcli services asup show コマンド

ASUP 設定を表示します。これには ASUP 受信者リストが含まれ、さらに ASUP が有効か無効かも示されます。

**stcli services asup show [-h]**

**コマンド デフォルト** 他に指定できるオプションはありません。

**使用上のガイドライン** stcli services asup show コマンドは、適用されている ASUP 設定をリストするために実行します。

この応答例では、ASUP が有効でなく、受信者リストに電子メールアドレスがないことを示しています。

```
# stcli services asup show
```

```
recipientList:
enabled: False
```

## stcli services dns コマンド

ドメイン ネーム サーバ (DNS) サーバ設定操作。DNS は、インターネットまたはプライベートネットワークに接続されたコンピュータ、サービス、およびリソース向けの階層的な分散型ネーミングシステムです。

**stcli services dns [-h] {show | set | add | remove}**

### 構文の説明

| オプション         | 必須またはオプション   | 説明                          |
|---------------|--------------|-----------------------------|
| <b>add</b>    | セットのいずれかが必要。 | DNS サーバリストにサーバを追加します。       |
| <b>set</b>    | セットのいずれかが必要。 | DNS サーバリストをこの新しいリストに置き換えます。 |
| <b>show</b>   | セットのいずれかが必要。 | DNS サーバリストを表示します。           |
| <b>remove</b> | セットのいずれかが必要。 | DNS サーバリストからサーバを削除します。      |

**コマンドデフォルト** なし。セット内の1つのオプションが必要。

**使用上のガイドライン** stcli services dns コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli services dns add コマンド

DNS サーバリストにサーバを追加します。

```
stcli services dns add [-h] --dns DNSSERVER [DNSSERVER...]
```

| 構文の説明 | オプション                                       | 必須またはオプション | 説明                              |
|-------|---|------------|---------------------------------|
|       | <code>--dns DNSSERVER [DNSSERVER...]</code> | 必須です。      | DNS サーバリストに追加する1つ以上のサーバをリストします。 |

**コマンドデフォルト** なし。サービス ID は少なくとも1つ必要です。

**使用上のガイドライン** stcli services dns add コマンドでは、少なくとも1つの DNS サーバ ID を指定します。サーバが複数ある場合はスペースで区切ります。

```
# stcli services dns add --dns 10.60.8.9
```

## stcli services dns remove コマンド

DNS サーバリスト内の既存のサーバリストから1つ以上またはすべてのサーバを削除します。

```
stcli services dns remove [-h] --dns DNSSERVER [DNSSERVER...]
```

| 構文の説明 | オプション                                       | 必須またはオプション | 説明                                      |
|-------|---|------------|---|
|       | <code>--dns DNSSERVER [DNSSERVER...]</code> | オプション。     | 現在の DNS サーバリストから削除する少なくとも1つのサーバをリストします。 |

**コマンドデフォルト** デフォルトでは、リストからすべての DNS サーバを削除します。

**使用上のガイドライン** stcli services dns remove コマンドでは、DNS サーバ ID をまったく指定しないか、1つまたは複数指定します。サーバが複数ある場合はスペースで区切ります。

```
# stcli services dns remove --dns 10.60.6.7
```

## stcli services dns set コマンド

DNS サーバリストの既存のサーバリストを置き換えます。現在のリストを削除して既存のリストにサーバを追加するには、`dns add` を使用します。

**stcli services dns set [-h] --dns DNSSERVER [DNSSERVER...]**

| 構文の説明 | オプション                                       | 必須またはオプション | 説明  |
|-------|---|------------|---|
|       | <code>--dns DNSSERVER [DNSSERVER...]</code> | 必須です。      | 現在の DNS サーバリストを置き換える少なくとも 1 つのサーバをリストします。 |

**コマンド デフォルト** なし。サービス ID は少なくとも 1 つ必要です。

**使用上のガイドライン** `stcli services dns set` コマンドでは、少なくとも 1 つの DNS サーバ ID を指定します。サーバが複数ある場合はスペースで区切ります。

```
# stcli services dns set --dns 10.60.1.1
```

## stcli services dns show コマンド

DNS サーバリストを表示します。

**stcli services dns show [-h]**

**コマンド デフォルト** 他にオプションはありません。

**使用上のガイドライン** `stcli services dns show` コマンドを実行します。

```
# stcli services dns show
10.64.1.8
10.64.1.9
```

## stcli services ntp コマンド

HX Data Platform ネットワーク タイム プロトコル (NTP) 設定操作。

NTP はコンピュータ ネットワークでコンピュータの時刻を同期するために使用するプロトコルで、これを使用すると、複数のネットワーク デバイスからシステム ログやその他の時間固有のイベントを受信したときに、イベントを相互に関連付けることができようになります。NTP ではトランスポートプロトコルとして、ユーザデータグラムプロトコル (UDP) を使用します。すべての NTP 通信は UTC を使用します。

**stcli services ntp [-h] {add | set | show | remove}**



| 構文の説明 | オプション         | 必須またはオプション   | 説明                                      |
|-------|---------------|--------------|---|
|       | <b>add</b>    | セットのいずれかが必要。 | 1つ以上のサーバをストレージ NTP サーバリストに追加します。        |
|       | <b>set</b>    | セットのいずれかが必要。 | 既存の NTP サーバリストを指定された DNS サーバリストに置き換えます。 |
|       | <b>show</b>   | セットのいずれかが必要。 | ストレージ NTP サーバリストを表示します。                 |
|       | <b>remove</b> | セットのいずれかが必要。 | ストレージ NTP サーバリストから 1 つ以上のサーバを削除します。     |

**コマンドデフォルト** なし。セット内の 1 つのオプションが必要。

**使用上のガイドライン** `stcli services ntp` コマンドでは、`{ }` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli services ntp add コマンド

1 つ以上のサーバをストレージ DNS サーバリストに追加します。

**stcli services ntp add [-h] --ntp NTPSERVER [NTPSERVER ...]**

| 構文の説明 | オプション                                  | 必須またはオプション | 説明                                |
|-------|--|------------|-----------------------------------|
|       | <b>--ntp NTPSERVER [NTPSERVER ...]</b> | 必須です。      | 1 つ以上のサーバをストレージ NTP サーバリストに追加します。 |

**コマンドデフォルト** なし。サービス ID は少なくとも 1 つ必要です。

**使用上のガイドライン** `stcli services ntp add` コマンドでは、少なくとも 1 つのサーバ ID を指定します。

```
# stcli services ntp add --ntp 136.158.1.0
```

## stcli services ntp remove コマンド

ストレージ DNS サーバリストから 1 つ以上のサーバを削除します。

**stcli services ntp remove [-h] --ntp NTPSERVER [NTPSERVER ...]**

| 構文の説明      | オプション   | 必須またはオプション | 説明                                  |
|------------|---|------------|-------------------------------------|
|            | <b>--ntp NTPSERVER [NTPSERVER...]</b>                     | オプション。     | ストレージ DNS サーバリストから 1 つ以上のサーバを削除します。 |
| コマンド デフォルト | デフォルトでは、ストレージ NTP サーバリストからすべての NTP サーバを削除します。             |            |                                     |
| 使用上のガイドライン | stcli services ntp remove コマンドでは、少なくとも 1 つのサーバ ID を指定します。 |            |                                     |
|            | <pre># stcli services ntp remove --ntp 136.158.1.0</pre>  |            |                                     |

## stcli services ntp set コマンド

既存の NTP サーバリストを新しいリストに置き換えます。既存のリストにサーバを追加するには、ntp add を使用します。

**stcli services ntp set [-h] --ntp NTPSERVER [NTPSERVER...]**

| 構文の説明      | オプション  | 必須またはオプション | 説明   |
|------------|--|------------|--|
|            | <b>--ntp NTPSERVER [NTPSERVER...]</b>                  | 必須です。      | 1 つ以上のサーバを指定して、現在のストレージ NTP サーバリストを置き換えます。 |
| コマンド デフォルト | なし。サービス ID は少なくとも 1 つ必要です。                             |            |  |
| 使用上のガイドライン | stcli services ntp set コマンドでは、少なくとも 1 つのサーバ ID を指定します。 |            |  |
|            | <pre># stcli services ntp set --ntp 10.12.1.1</pre>    |            |  |

## stcli services ntp show コマンド

ストレージ DNS サーバリストを表示します。

**stcli services ntp show [-h]**

|            |  |  |  |
|------------|--|--|--|
| コマンド デフォルト | 指定できるオプションはありません。  |  |  |
| 使用上のガイドライン | stcli services ntp show コマンドを実行します。  |  |  |
|            | <pre># stcli services ntp show 0.company.pool.ntp.org ntp.ubuntu.com</pre> |  |  |

## stcli services sch コマンド

このセクションでは、Cisco Smart Call Home (SCH) コマンドをリストし、説明します。Smart Call Home は、HX ストレージクラスタに関する継続的なモニタ、プロアクティブな診断、アラート、サービス チケット通知、および推奨する改善策を指定の ASUP カスタマー コンタクトに提供します。また、必要に応じて、HTTPS やプロキシサーバを介して情報を提供することもできます。



(注) HX ストレージクラスタがファイアウォールの背後にある場合、アクセスするにはプロキシサーバが必要です。

```
stcli services sch [-h] {enable | disable | show | ping | clear | set}
```

### 構文の説明

| オプション          | 必須またはオプション   | 説明  |
|----------------|--------------|---|
| <b>clear</b>   | セットのいずれかが必須。 | Smart Call Home 設定をクリアします。                          |
| <b>disable</b> | いずれか 1 つが必須。 | Smart Call Home を無効にします。                            |
| <b>enable</b>  | いずれか 1 つが必須。 | Smart Call Home を有効にします。                            |
| <b>ping</b>    | いずれか 1 つが必須。 | Smart Call Home エンドポイントに ping します。                  |
| <b>set</b>     | いずれか 1 つが必須。 | HTTPS アクセス用のプロキシサーバを含め、Smart Call Home を登録するためのコマンド |
| <b>show</b>    | いずれか 1 つが必須。 | Smart Call Home 設定を表示します。                           |

コマンドデフォルト なし。セット内の 1 つのオプションが必要。

使用上のガイドライン stcli services sch コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli services sch clear コマンド

ストレージクラスタ設定から Smart Call Home メールおよびプロキシ設定を削除します。

```
stcli services sch clear [-h]
```

コマンドデフォルト 他にオプションはありません。

---

**使用上のガイドライン** stcli services sch clear コマンドは、ストレージクラス設定から Smart Call Home 通知メールおよびプロキシ設定を削除するために実行します。

```
# stcli services sch clear
```

## stcli services sch disable コマンド

HX Smart Call Home を無効にします。

**stcli services sch disable [-h]**

---

**コマンド デフォルト** 他にオプションはありません。

---

**使用上のガイドライン** stcli services sch disable コマンドを実行します。

```
# stcli services sch disable
```

## stcli services sch enable コマンド

HX Smart Call Home を有効にします。通知メールアドレスを設定するには、「stcli services sch set」を参照してください。

**stcli services sch enable [-h]**

---

**コマンド デフォルト** 他にオプションはありません。

---

**使用上のガイドライン** stcli services sch enable コマンドを実行します。

```
# stcli services sch enable
```

## stcli services sch ping コマンド

Smart Call Home エンドポイントに ping します。

**stcli services sch ping [-h]**

---

**コマンド デフォルト** オプションはありません。

---

**使用上のガイドライン** stcli services sch ping コマンドを実行します。

次に例を示します。

```
# stcli services sch ping
```

```
ping to callhome endpoint was successful
```

## stcli services sch set コマンド

Smart Call Home サービスに必要な連絡先とプロキシサーバを設定します。



**重要** プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

```
stcli services sch set [-h] --email EMAILADDRESS [--proxy-url PROXYURL] [--proxy-port PROXYPORT] [--proxy-user PROXYUSER] [--portal-url PORTALURL] [--enable-proxy ENABLEPROXY]
```

### 構文の説明

| オプション                             | 必須またはオプション | 説明  |
|-----------------------------------|------------|---|
| <b>--email EMAILADDRESS</b>       | 必須です。      | Cisco サポートからのメールを受信する人の電子メールアドレスを追加します。配布リストまたはエイリアスを使用することを推奨します。          |
| <b>--enable-proxy ENABLEPROXY</b> | オプション。     | プロキシの使用を明示的に有効または無効にします。  |
| <b>--portal-url PORTALURL</b>     | オプション。     | 代替の Smart Call Home ポータルの URL を指定します (該当する場合)。                              |
| <b>--proxy-url PROXYURL</b>       | オプション。     | HTTP プロキシの URL を指定します (該当する場合)。   |
| <b>--proxy-port PROXYPORT</b>     | オプション。     | HTTP プロキシのポートを指定します (該当する場合)。   |
| <b>--proxy-user PROXYUSER</b>     | オプション。     | HTTP プロキシのユーザを指定します (該当する場合)。<br><br>HTTP プロキシのパスワードを指定します (メッセージが表示される場合)。 |

### コマンドデフォルト

なし。電子メールアドレスは必須です。プロキシサーバは、デフォルトでは設定されていません。

### 使用上のガイドライン

stcli services sch set コマンドでは、電子メール受信者のアドレスを指定します。HX ストレージクラスタがファイアウォールの背後にある場合は、プロキシサーバを設定します。

Smart Call Home サービスを使用するには、プロキシサーバが有効になっていることを確認します。stcli services sch show コマンドと stcli services sch enable コマンドを参照してください。

```
# stcli services sch set --email alias@mycompany.com
```

## stcli services sch show コマンド

Smart Call Home 設定を表示します。これには設定した通知メールとプロキシの設定が含まれ、さらに Smart Call Home は有効か無効かが示されます。

### stcli services sch show [-h]

#### コマンド デフォルト

他に指定できるオプションはありません。

#### 使用上のガイドライン

stcli services sch show コマンドは、適用されている Smart Call Home 設定をリストするために実行します。

この応答例では、Smart Call Home は有効になっているものの、電子メールアドレスとプロキシ設定は設定されていないことを示しています。

```
# stcli services sch show
proxyPort: 0
proxyUser:
enabled: True
proxyPassword:
cloudEnvironment: production
proxyUrl:
emailAddress:
portalUrl:
cloudAsupEndpoint: https://diag-hyperflex.io/
```

## stcli services remotesupport コマンド

このセクションでは、リモートサポート コマンドをリストし、説明します。このコマンドにより、Cisco サポートはユーザの HX ストレージクラスタにアクセスして、設定されている通知メールとプロキシの設定や、サポートによってトリガーされるサポートバンドルなど、クラスタ操作に関する情報を収集できます。

この設定はデフォルトでイネーブルになっています。

### stcli services remotesupport [-h] {set | show}

| 構文の説明 | オプション       | 必須またはオプション   | 説明                 |
|-------|-------------|--------------|--------------------|
|       | <b>set</b>  | セットのいずれかが必要。 | リモートサポートを設定するコマンド。 |
|       | <b>show</b> | セットのいずれかが必要。 | リモートサポート設定を表示します。  |

コマンドデフォルト なし。セット内の1つのオプションが必要。

使用上のガイドライン `stcli services remotesupport` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli services remotesupport set コマンド

リモートサポートアクセスとアクションについて設定します。

**stcli services remotesupport set [-h] --enable ENABLE\_RS\_VALUE [--enable-support-bundle-action ENABLE\_RSB\_VALUE]**

| 構文の説明 | オプション  | 必須またはオプション | 説明   |
|-------|--|------------|--|
|       | <b>--enable ENABLE_RS_VALUE</b>                        | 必須です。      | リモートサポートを有効または無効にします。true または false のいずれかの値を指定します。   |
|       | <b>--enable-support-bundle-action ENABLE_RSB_VALUE</b> | オプション。     | サポートバンドルアクションを有効または無効にします。true または false のいずれかを指定します。<br><br>TAC がサポートバンドルの構築をリモートからトリガーできるようにします。 |

コマンドデフォルト リモートサポートは、デフォルトで有効になっています。

使用上のガイドライン `stcli services remotesupport set` コマンドでは、必須パラメータを指定します。

```
# stcli services remotesupport set --enable false
```

## stcli services remotesupport show コマンド

リモートサポート設定を表示します。これには設定した通知メールとプロキシの設定が含まれ、さらにリモートサポートは有効か無効か、およびサポートによってトリガーされるサポートバンドルは有効か無効かが示されます。

**stcli services remotesupport show [-h]**

**コマンド デフォルト** 他に指定できるオプションはありません。

**使用上のガイドライン** stcli services remotesupport show コマンドは、適用されている設定をリストするために実行します。

この応答例では、サポートによるリモートアクセスおよびリモートからトリガーされるサポートバンドルが有効になっていることを示しています。

```
# stcli services remotesupport show
enableSupportBundleAction: True
enabled: True
```

## stcli services smtp コマンド

HX Data Platform の Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) 設定オプション。SMTP は、電子メール送信のインターネット標準です。SMTP サーバは、HX ASUP 機能とともに使用されます。

**stcli services smtp [-h] {show | set | clear}**

| 構文の説明 | オプション        | 必須またはオプション   | 説明                                   |
|-------|--------------|--------------|--------------------------------------|
|       | <b>clear</b> | セットのいずれかが必要。 | ストレージクラス設定からすべての SMTP サーバを削除します。     |
|       | <b>set</b>   | セットのいずれかが必要。 | すべての SMTP サーバをストレージクラス設定に追加します。      |
|       | <b>show</b>  | セットのいずれかが必要。 | ストレージクラス用に設定されたすべての SMTP サーバをリストします。 |

**コマンド デフォルト** なし。セット内の 1 つのオプションが必要。

**使用上のガイドライン** stcli services smtp コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli services smtp clear コマンド

ストレージクラス設定からすべての SMTP サーバを削除します。

**stcli services smtp clear [-h]**

**コマンド デフォルト** 他にオプションはありません。



**使用上のガイドライン** stcli services smtp clear コマンドは、ストレージクラスタ設定からすべての SMTP サーバを削除するために実行します。

SMTP サーバが削除されたことを確認するには、/etc/msmtprc ファイルが存在しないことを確認します。

```
# stcli services smtp clear
```

## stcli services smtp set コマンド

SMTP サーバをストレージクラスタ設定に追加します。

```
stcli services smtp set [-h] --smtp SMTPSERVER --fromaddress FROMADDRESS
```

### 構文の説明

| オプション                            | 必須またはオプション | 説明   |
|----------------------------------|------------|--|
| <b>--smtp SMTPSERVER</b>         | 必須です。      | SMTP サーバのホスティング アドレス。  |
| <b>--fromaddress FROMADDRESS</b> | 必須です。      | 自動サポート電子メールの送信元となる電子メール アドレス。SMTP サーバが受信者にメール通知を送信するために使用するアドレス。 |

### コマンド デフォルト

なし。サーバ情報は必須です。

### 使用上のガイドライン

stcli services smtp set コマンドでは、必須パラメータを指定します。

SMTP サーバが設定されていることを確認するには、/etc/msmtprc ファイルを確認します。

```
# stcli services smtp set --smtp mailhost.eng.mycompany.com --fromAddress smtpnotice@mycompany.com
```

## stcli services smtp show コマンド

ストレージクラスタが設定されている SMTP サーバを表示します。

```
stcli services smtp show [-h]
```

### コマンド デフォルト

他にオプションはありません。

### 使用上のガイドライン

stcli services smtp show コマンドは、ストレージクラスタ設定のすべての SMTP サーバを表示するために実行します。

```
# stcli services smtp show
```

```
smtpServer: mailhost.eng.mycompany.com
fromAddress: admin@mycompany.com
```

## stcli services timezone コマンド

HX Data Platform タイムゾーン設定操作。

**stcli services timezone [-h] {show | set}**

| 構文の説明 | オプション       | 必須またはオプション   | 説明                          |
|-------|-------------|--------------|-----------------------------|
|       | <b>set</b>  | セットのいずれかが必要。 | コントローラ VM のタイムゾーンを指定します。    |
|       | <b>show</b> | セットのいずれかが必要。 | 現在設定されているシステム タイムゾーンを表示します。 |

**コマンド デフォルト** なし。セット内の 1 つのオプションが必要。

**使用上のガイドライン** `stcli services timezone` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli services timezone set コマンド

コントローラ VM のタイムゾーンを指定します。

**stcli services timezone set [-h] --timezone TIMEZONE**

| 構文の説明 | オプション                            | 必須またはオプション | 説明  |
|-------|----------------------------------|------------|---|
|       | <code>--timezone TIMEZONE</code> | 必須です。      | <p>タイムゾーンの値を指定します。</p> <p>有効なタイムゾーン値のリストについては、次にアクセスしてください。</p> <p><a href="http://manpages.ubuntu.com/manpages/jaunty/ma%20n3/DateTime::TimeZone::Catalog.3pm.html">http://manpages.ubuntu.com/manpages/jaunty/ma%20n3/DateTime::TimeZone::Catalog.3pm.html</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タイムゾーンの値は、このリストからのみ（大文字と小文字を区別して）指定するようにしてください。たとえば、<code>Europe/Paris</code> や <code>America/Los_Angeles</code> とします。</li> <li>このリストにない値は無効です。</li> <li>無効なタイムゾーンを指定すると、GMT に戻されます。</li> </ul> |

**コマンドデフォルト** なし。タイムゾーンは必須です。

**使用上のガイドライン** `stcli services timezone set` コマンドでは、有効なタイムゾーンを指定します。

```
# stcli services timezone set --timezone America/Los_Angeles
```

## stcli services timezone show コマンド

コントローラ VM に現在設定されているシステム タイムゾーンを表示します。

**stcli services timezone show [-h]**

**コマンドデフォルト** 他にオプションはありません。

**使用上のガイドライン** `stcli services timezone show` コマンドは、現在設定されているタイムゾーンを表示するために実行します。

```
# stcli services timezone show
America/New_York
```

